

## 謹んで

寒廿の祝舞いを申します  
年もあつたまつ、歳を重ねおかねあつて、健  
勝のじとお慶び申します。

わく、約六十年にわたつて常讚寺の住職を勤めて  
參つまつた父藤場常清が、去る九月一日、家族の見  
守る中静かに息を引き取り往生の素懐を遂げまし  
た。

故人は、念佛の教えに生れるじとを何よりも大切  
にしておりました。その浄土真宗の教えによれば、  
浄土に往生し仏に成るじとせ、悲しうぐれじとでも  
忌み嫌われるぐれじとでもあります。したがいまし  
て、往生を喪（死別を悲しむ）とつて欠礼するじとは  
故人の理ぬじとではなこと思われます。しかしながら、  
がい、じとせの新年の慶賀に不興をかじつても本意  
ではありますので、年賀状を遠慮し、本状をもち  
まして年頭の御挨拶を申上げます。

一〇一三〇年一月十五日

藤場俊基

一九二八一五 鈴々市中三線一丁目一五  
電話 076-248-4271-7203